

院内がん登録からみる当院の乳癌診療と全国集計との比較

P2-03

愛知県がんセンター 乳腺科部⁽¹⁾

愛知県がんセンター 研究所 がん情報・対策研究分野⁽²⁾

小牧里恵⁽¹⁾ 吉村章代⁽¹⁾ 安東美の里⁽¹⁾ 小川莉佳子⁽¹⁾ 中澤綾⁽¹⁾ 楠戸真帆⁽¹⁾
秋田由美子⁽¹⁾ 遠藤由香⁽¹⁾ 片岡愛弓⁽¹⁾ 小谷はるる⁽¹⁾ 服部正也⁽¹⁾ 原文堅⁽¹⁾ 伊藤秀美⁽²⁾

【目的】

全国がん登録罹患データによると2020年の乳房のがん罹患率は91531例で、女性の部位別罹患数ではトップである。年齢階級別の乳癌罹患率では30代前半から増え始め、他の癌腫より若年層での罹患が多い傾向である。院内がん登録システムによる詳細な医療情報は診療の現状を理解するのに重要である。また施設間でのデータ比較や生存率集計など活用方法がさまざまである。今回の研究目的は院内がん登録情報から当院の乳癌診療と全国集計の違いを検査することである。

【方法】

院内がん登録情報を用いて2011年～2015年に乳癌と診断された乳癌患者を対象に当施設と全国集計（国立がん研究センター2014-2015年5年生存率集計報告書）の年代別・TNMステージ別の5年実測生存率を比較した。

【結果】

Table1:患者背景

	当院 (%)	全国集計 (%)
対象者	1880	85403
年代別		
40歳未満	210 (11.2%)	4484 (5.3%)
40代	562 (29.9%)	18422 (21.6%)
50代	456 (24.3%)	17341 (20.3%)
60代	440 (23.4%)	21639 (25.3%)
70代	171 (9.1%)	15752 (18.4%)
80歳以上	41 (2.2%)	7765 (9.1%)
UCC TNMステージ別		
I期	997 (53.0%)	38996 (45.7%)
II期	608 (32.3%)	30931 (36.2%)
III期	205 (10.9%)	10127 (11.9%)
IV期	66 (3.5%)	4941 (5.8%)

Table1の患者背景で60代未満の割合が全国集計と比較し当院は多かった。一方、70代以降の割合が少ない傾向であった。TNMステージ別ではI期の割合が全国集計より多かった。

Figure1ではいずれの年代も当院の方が全国集計より高い5年実測生存率であった。

Figure2では全ステージで全国集計より高い5年実測生存率であった。

Figure1:年代別5年実測生存率

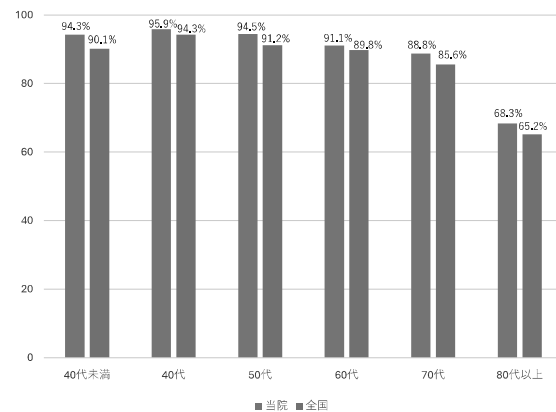
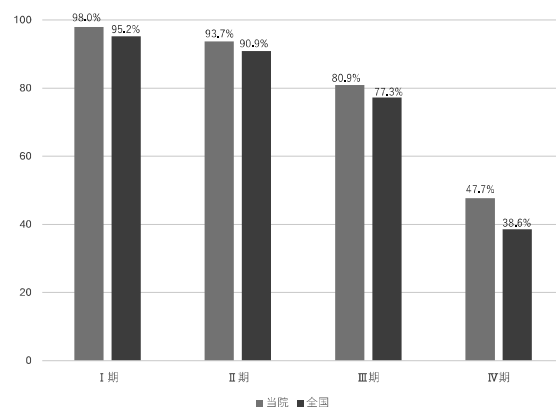


Figure2: UCC TNMステージ別5年実測生存率



【結論】

当院は全国集計と比べ70歳以上の高齢者の割合が少なかったが、高齢者の5年生存率も全国集計より上回っていた。比較的全身状態がよく当院まで通院治療が可能な高齢者に対し標準治療が行われている事が理由の一つとして推察される。ステージ別の比較でも全ステージで全国集計の生存率より上回っており、特にIV期は10%近く差があった。がん専門病院である当院の特徴の一つは、治験が多く、乳腺専門医・薬物治療専門医が多く在籍する事であり、当院に求められるニーズに沿った適切な医療が提供できている事が示唆される。

【結語】

今後、がん登録推進法施行後の2016年以降の集計も、継続して比較検討していきたい。

日本がん登録協議会
第34回学術集会
COI開示
筆頭演者:小牧 里恵
当演題発表に関し、開示すべきCOIはありません。